



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」46号
Issue Date	1977-11-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66733
Type	journal
File Information	yuin46.pdf





図書問題の昨日今日

附属図書館長 高 嶋 正 彦

これは学科の経験に属することである。かれこれ30年ほど前に、農学部助手を拝命して農業経済学科に着任したとき、新しい分類にしたがって図書の整理をやり直す仕事が行われていた。助手が分類をし事務の方々がカードを書きかえて配架替えをするのである。こういう仕事は短時日にやってもいけないといけないうのだが、それができず、大変な混乱をひき起した。それから10年ほどして学科では運よく一人の優れたライブラリアンを獲得した。もったいないほどの人である。他に事務官を一人図書にさいた。さらに学部の図書掛の協力もえて、ほぼ正常化した。その間実に9カ年の長きを要したのである。

わたくしどもでは研究教育の資料として統計をよく使う。昔はコピー装置がなくこれを写しとるのに時間がかかった。また利用がまちまちが多いということもあって、これを手元におくことを余儀なくされた。講座共通の立派な図書室が教室の中央にあるのに、ここに集中化できず講座ごとに重複して買った。大変無駄にみえるが当時はやむをえなかった。8~9年ぐらい前のことであろうか、学科にもコピーの機械が導入された。必要な部分を簡単に写しとることができるようになって、統計資料は全部中央図書室に集中し重複購入の無駄はなくなった。このことは各講座に共通の定期刊行物についても同じであった。特に欧文の雑誌は高いものを重複して買わなくてすむようになった。しかしこの集中方式は単行本にまでは及ばなかった。これをまるまるコピーをするのは高くつくし、絶えず手元におかないと何時でも使いたいときに使えないという不安があるからだと思う。それでもこれらのことで古くからの問題はかなり大幅に解消した。

かわって最近新しく別な問題が生じてきた。一つは、中央図書室を完備し、雑誌・統計を中央に集中化したことのしわ寄せが、他の面で講座の研究費を圧迫しはじめた。事務の中央集中化は、定員削減ともかさなり、各講座にパートの職員をおくことを余儀なくした。機械の便利さは、コピーの使用を盛んにし、その経費を膨脹させた。講座はこれらの経費におわれて、必要な本を充分に買うことができない、という問題がでてきたのである。もうひとつは、どの講座でも手元にある図書が年々ふえつづけて、置きどころがなくパンク寸前という状態がでてきたことである。いまや各講座は予算の面でも部屋のスペースの面でも切羽詰まった状況にある。

農経学科ではいま将来計画委員会でこれからの図書のあり方を検討しようとしている。問題が難かしければ難かしいほど、北大の使命と伝統にたちかえって考えることが必要となるであろう。たまたま館長に就任して、あらためて北大図書館の使命と伝統に思いをよせることの多い昨今である。

◆ 会 議

第87回 図書館委員会

<と き 昭和52年9月10日(土)>

<ところ 附属図書館会議室>

1. 逐次刊行物の購入について
2. 学部共通図書購入について
3. 外国雑誌購入費について
4. 特別図書購入費について
5. 学生用図書購入費について
6. そ の 他

第55回 教養分館委員会

<と き 昭和52年7月29日(金)>

<ところ 教養分館長室>

1. 「参考図書」の選定について
2. 学生用図書購入費について
3. 昭和52年度演習室の後期利用申込みについて
4. 北海道大学附属図書館教養分館演習室利用要項(案)について
5. 北海道大学附属図書館教養分館ビデオ視聴室利用要項(案)について
6. そ の 他

全学図書(担当)掛長連絡会議

<と き 昭和52年9月27日(火)>

<ところ 附属図書館会議室>

1. 外国雑誌購入費について
2. 国立7大学図書館協議会報告
3. そ の 他

全学図書(担当)掛長連絡会議

<と き 昭和52年10月17日(月)>

<ところ 附属図書館会議室>

1. 1978年外国雑誌一括購入について
2. そ の 他

◆ 研 修

昭和 52 年度

「大学図書館職員長期研修」に参加して

高 橋 裕

文部省学術国際局、図書館短期大学共催による昭和 52 年度長期研修は、昨年度同様、図書館短期大学を会場として、8 月 8 日から 9 月 3 日までの 4 週間、約 1 カ月に亘り開催された。この研修の主旨は大学図書館に勤務する 10 年を越えた職員（大卒者 5 年以上）に学術情報、文献等の最近の急激な増大と多様化の中で大学図書館が学術情報の仲介者として利用者への時代に即応した対応を習得すべく構成されたものである。

初日の受付、開講式に引き続いてオリエンテーションがあり、書誌情報の標準化、情報サービス（機械サービス）、参考業務、職場の改善などについての研修が始められた。この中で「職場の改善」は新しい試みとして採用されたもので、日本能率協会が指導するグループ KJ 法によるものであった。この他に共同研究討議が第 1 回から第 3 回まで設定されている。これらは昭和 52 年度大学図書館職員長期研修講義要綱 I, II で参照できる様に「学術情報と大学図書館」、「大学図書館の国際的動向」を序論とし、2. 大学図書館の管理運営、3. 情報管理とコンピュータ、4. 書誌調整と MARC、5. 参考業務、6. 見学等（在研報告）について講義、見学、共同討議、パネルディスカッション等が実施された。

講義は主会場の図書館短大においてその好意により唯一のクーラー設置会場で大半を過ぎて頂いた。さてこの講義の内容についてであるが、8 日の午後、大阪大学理学部千原教授の「学術情報と大学図書館」の講義に始まり、25 日場所を御殿場へ移すまでの間の全講義がコンピュータを背景にして講述されていると云って過言ではない。所謂、機械化ということは図書館業務のみならず多方面に大きな変革を試み、開発しつつあり、するであろう問題に他ならない。また大学図書館にとって、現在すでに、今後私達の業務の中に避ける避けないという問題以外の必然性をもって取り入れられて来るのは単に時間の問題でしかないという感じである。急速な発展を短時間で遂げた日本のコンピュータをどの様に大学図書館として装備していくかは、先導試行されているが、これからの問題でもある。構築する、ベースに載せることは多数のひとと非常な苦労があるが一旦構築して載せてしまうと非常に便利で有効であることはいうまでもなく、量的処理、スピード化、単純な繰り返し作業等の機械処理といった様に、現在の業務を載せ得る着実な計画がすでに始まっているのかもしれない。

見学は、都立中央図書館、日本電信電話公社、日本科学技術情報センター、国文学研究資料館、東京工業大学附属図書館、東京学芸大学附属図書館の順に 6 カ所を見せて頂き非常に有益で、特にコンピュータに関する実際は印象深いものがあつた。

共同研究討議は第 1 回目テーマを提出、三つのテーマに絞り、グループに別れ、第 2 回目に自主討議を行ない、第 3 回目発表という、少しばかり時間に余裕のない憾みがあつたが、各々の図書館の実情が窺えて考えさせられるものがあつたり、グループ別ながら身近な交友を深めた。

パネル討議は図書館短大の教師 4 人に受講者から 2 名のパネリストを出し、情報図書館課専門員の司会により「図書館とコンピュータ」のテーマで行なわれ、これからの大学図書館の

機械化に焦点が合せられた。また今回の新しい試みであるところの「職場の改善—グループ KJ による—日本能率協会」は会場を 8 月 25 日午後御殿場にある中央青年の家に移し、28 日曜日午後 2 時退所までの 3 泊 4 日の合宿演習を行なった。これは KJ 法所謂、川喜田二郎氏による発想法の一つであり、夜 10 時過ぎまでの強行で実施された。変った面白さに引き込まれたというよりも私にとっては小グループ編成の団体意識、連帯責任の訓練といえるものであり、共同討議より更に身近にグループされた人達の人柄を感じさせられた。ハイキングも何とか天気の恢復で催されたが時間ギリギリで電車で飛び乗り帰京した。

最終の「参考業務の実際」は昨年同様、人文・社会科学系、理工学系、医学・生物学系に別れ実習を受けた。私は人文・社会科学系で東京大学附属図書館を会場とし、参考図書室を使用しての実習で世話になった。

8 月 8 日に始まって 26 日間雨の降らない日がないという冷夏にぶつかり酷暑から脱れたとはいえ北海道育ちの私には湿度の高い夏であった。しかし私にとってはまたとない集中的な知識を得る機会を得、少しばかり長期ではあるが、これらを短期にまとめた単一の研修から図書館職員の向上を計って欲しいものと感じた次第である。

終りに文部省、図書館短大の皆様非常に御世話になり感謝すると同時に出席させて頂いたことに感謝いたします。

(整理課受入掛長)

資料紹介

Journal Citation Reports (JCR) の利用法

——引用分析による学術雑誌の
評価のために——

山 本 幾 夫

はじめに

研究者の情報要求を最大限に満たすために図書館としてどのような資料を備えるべきか、このことは研究者自身にとってはもとより、図書館員にとっても、常に古くてしかも新たらしい問題である。情報要求の多様化、その結果もたらされる文献情報の爆発的な増加、資料購入費の制約、さらには資料費の高騰という渦中であって、多少とも自己完結的 (self-contained) な蔵書を構成し、これを維持していくには、資料の選択と評価の過程で何らかの客観的な基準を援用することが必要になってくる。

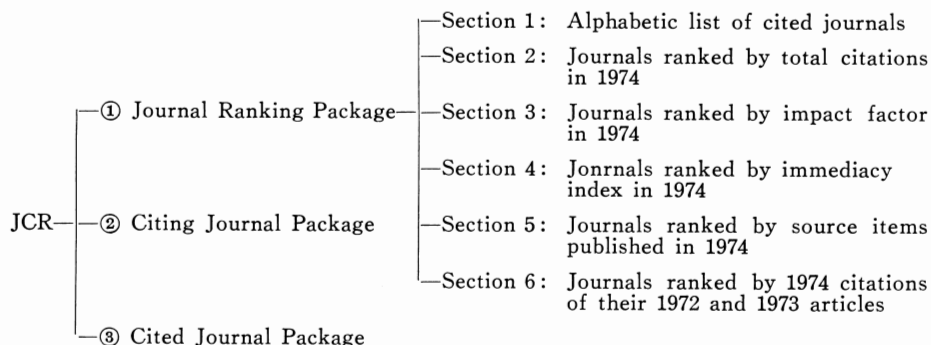
JCR は Science Citation Index (SCI) の対象とする自然科学系の学術雑誌、およそ 2,400 タイトルについて、それぞれの引用 (reference)・被引用 (citation) 回数をもとに、様々な角度から順位づけ (Journal ranking) を行うと同時に雑誌相互間の引用関係 (citation relationship) を明らかにしている。対象とする学域とタイトル、分析方法などに当然制約があるとはいえ、JCR は、資料の選択と所蔵資料の評価に際して有効な手段を提供するに違いない。

JCR は SCI のデータ・パッケージより、その副産物としてつくられているものである。初回は 1969 年に computer out-put form のままで、2 回目は 1975 年に SCI の年間版の 1 部と

して book form で出版されている。今後はこの方式で継続出版されるものと思われる。ただし、JCR はその出版年より 1 暦年前の SCI データをもとに産出されるものである。以下の説明はすべて JCR 1975 年版、つまり 1974 年の SCI データにもとづいている。なお SCI の利用法については、本館 前閲覧課長谷本幹夫氏が本誌 Vol. 6, No. 1, pp. 3-7 (1972) で詳述しておられるので、ここでは一切ふれていない。

1. JCR の構成

JCR は以下のように、3 つの Package と 6 つの Section から構成されている；



①の Section 1 は、SCI-1974 の対象誌 (SCI Source Journal) によって引用されている雑誌 (SCI Cited Journal), 2,630 タイトルをその略誌名のアルファベット順にリストしたものである。①の Section 2~6 はこれらの雑誌について、次の 5 つの尺度によってカウントないしは計算し、値の高いものから順に ranking したものである；

Section	Ranking の尺度
2	1974 年に引用された総回数
3	Impact factor (影響度係数) ^{注1}
4	Immediacy index (緊要度指数) ^{注2}
5	1974 年の掲載論文総数
6	1973 年と 1972 年の 2 年間に掲載された論文が、1974 年に引用された回数

注 1 Impact factor = $\frac{1972 \text{ 年と } 1973 \text{ 年の } 2 \text{ 年間に掲載された論文のうち、} 1974 \text{ 年に引用された回数}}{1972 \text{ 年と } 1973 \text{ 年の } 2 \text{ 年間に掲載された論文総数}}$

つまり、ある雑誌の 2~3 年前の 1 論文が、最近 1 年間に平均何回引用されているかを示す

注 2 Immediacy index = $\frac{1974 \text{ 年に掲載された論文が同年中に引用された回数}}{1974 \text{ 年に掲載された論文総数}}$

つまり、ある雑誌の最近 1 年間に掲載された 1 論文が、同年中に平均何回引用されているかを示す

②は、それぞれの SCI Source Journal が 1974 年にどのような雑誌の何年の論文を何回引用しているかを示している。

③は、それぞれの SCI Cited Journal が 1974 年にどのような雑誌に、さらに何年の論文が何回引用されているかを示している。つまり②と③は共に雑誌相互の引用関係を、しかも互に表裏の関係で示しているのである。

2. Package と Section の説明

以下、記入例をもとに、それぞれの Package, Section の読みかたと利用法を説明しよう。

2.1 Journal Ranking Package, Section 1

Journal Ranking Package, Section 1:

Specimen

JOURNAL RANKING PACKAGE JOURNAL CITATION REPORTS SECTION 1 PAGE 1

JOURNALS IN ALPHABETICAL ORDER

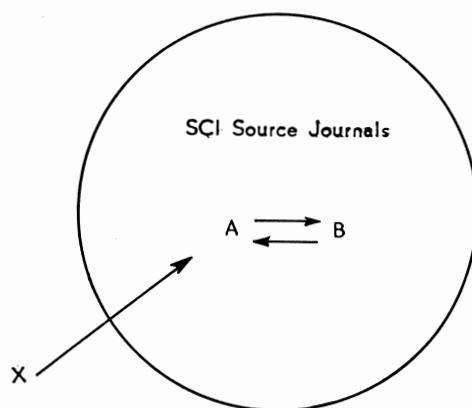
JOURNAL TITLE	CITATIONS IN 1974 TO			SOURCE ITEMS IN			IMPACT FACTOR	CITATIONS IN 1974 TO	SOURCE ITEMS IN 1974	IMMEDIACY INDEX
	ALL YEARS	1973	1972	1973	1972	73+72				
1 A GRAEFES A KLIN E O	647	72	52	124	90	78	0.756	24	123	0.195
2 A VAN LEEUW J MICROB	557	47	35	100	42	35	0.455	15	43	0.238
3 AAPG BULL	1839	151	203	354	145	138	1.188	29	161	0.180
4 ABRASIVE ENG	1	0	0	0	25	35	0.000	0	24	0.000
5 ACCOUNTS CHEM RES	2738	326	555	881	63	56	1.19	7.403	65	0.048
6 ACTA AGRO HUNG	43	6	2	8	54	60	0.070	114	95	0.011
7 ACTA ALGERO	334	40	44	84	33	30	0.72	1.187	9	0.225
8 ACTA ANAESTH SCAND	287	25	37	62	54	48	0.608	102	61	0.131
9 ACTA ANAT	1212	47	84	131	141	142	0.463	17	157	0.109
10 ACTA ASTRONAUTICA	10	0	0	0	40	89	0.000	3	94	0.032
11 ACTA BIOCHIM BIOPHYS	250	15	51	66	32	51	0.795	7	46	0.152
12 ACTA BIOCHIM POL	356	34	51	85	37	37	0.878	11	51	0.216
13 ACTA BIOL CRACOV BOT	48	2	5	7	13	19	0.219	32	1	0.067
14 ACTA BIOL CRACOV ZOO	86	5	2	7	27	23	0.140	1	18	0.056
15 ACTA BIOL HUNG	227	4	15	19	27	43	0.271	7	15	0.067
16 ACTA BIOL MED GER	922	112	189	301	216	228	0.678	50	223	0.224
17 ACTA BOT NEER	485	45	43	88	76	76	0.579	16	64	0.250
18 ACTA CHEM SCAND	8803	472	720	1192	549	595	1.144	165	434	0.380
19 ACTA CHIM HUNG	904	98	97	195	197	236	0.450	29	132	0.191
20 ACTA CHIR HUNG	54	6	9	15	45	32	0.195	77	33	0.091
21 ACTA CHIR SCAND	1645	64	142	206	142	137	0.738	279	133	0.195
22 ACTA CIENI VENEZ	64	6	14	20	77	101	0.112	178	10	0.000
23 ACTA CRYSTALLOGR	7598	22	18	40	0	0	0	0	0	0
24 ACTA CRYSTALLOGR A	1793	241	275	516	141	235	1.372	73	166	0.440
25 ACTA CRYSTALLOGR B	4520	854	984	1838	630	753	1.383	1329	635	0.348
26 ACTA CYTOL	763	98	93	191	81	90	1.117	8	73	0.110
27 ACTA DERMAT-VENEREO	840	96	122	218	120	84	1.069	27	96	0.281
28 ACTA DIABETOL LAT	201	12	44	56	48	11	0.982	33	39	0.077
29 ACTA ENDOCRINO PAN	12	0	6	6	8	10	0.333	0	0	0
30 ACTA ENDOCRINOLOG	4908	708	675	1383	251	311	0.562	159	278	0.372
31 ACTA ENTOMOL BOHEMO	79	15	23	38	51	42	0.408	7	44	0.159
32 ACTA GENET MED GEMEL	122	1	5	6	13	33	0.130	0	61	0.000
33 ACTA GERONTO	17	11	3	14	25	19	0.318	0	0	0
34 ACTA HAEMATOL	953	54	11	65	88	106	0.878	16	93	0.172
35 ACTA GASTRO	25	25			49		0.418		48	0

記入例 1

前述したように SCI-1974 の Source Journal に引用された雑誌 (SCI-1974 の Cited Journal) の一覧表である。紙面の関係で 30 数タイトルしか見えていないが、このセクションだけで 22 頁にわたり 2,630 タイトルがリストされている。各カラムの記載内容は以下のとおりである；

カラム (左より)	カラム記載内容の説明
1	タイトル番号
2	略誌名：正式誌名が容易に識別できる形をとっており、省略法にそれほど厳密性はない。識別が困難な場合は別表 “Abbreviated-to-Full Title Dictionary” を参照する
3~6	<...Citations in 1974> のカラムは、左からそれぞれ次のように解釈する (1) 1974 年に引用された総回数、(2) (1) のうち 1973 年の論文が引用された回数、(3) (1) のうちの 1972 年の論文が引用された回数、(4) = (2)+(3)
7~9	<...Source Items in...> のカラムは、左からそれぞれ次のように解釈する (1) 1973 年に掲載された論文数、(2) 1972 年に掲載された論文数、(3) = (1)+(2)
10	Impact factor: 前述のとおり。第 6 カラムの数値を第 9 カラムの数値で割った値
11	1974 年に掲載された論文が 1974 年に引用された回数
12	1974 年に掲載された論文総数
13	Immediacy index: 前述のとおり。第 11 カラムの数値を第 12 カラムの数値で割った値

タイトル番号 8 の *Acta Anaesthetica Scandinavica* を見てみよう。同誌は 1974 年の 1 年間に、SCI Source Journal によって 287 回引用されていることがわかる。このうち 62 回は、同誌の 1972 年と 1973 年の論文を引用したものである。一方、同誌は 1973 年と 1972 年に、それぞれ 54 と 48 の論文を掲載している。この 2 年間に掲載した 102 (54+48) の論文が、SCI-1974 の Source Journal によって 62 回引用されているわけである。従って同誌の Impact factor は 0.608 (62/102) となる。また同誌は 1974 年に 61 の論文を掲載している。この 61 の論文が SCI-1974 の Source Journal によって 8 回引用されているわけで、同誌の Immediacy index は 0.131 (8/61) となる。なお、JCR では 0 (ゼロ) は文字どおり 0 に、small bullet “.” はデータが得られない場合に、空白は計算が不可能な場合に用いられている。一般に JCR では、右図に示されるように SCI Source Journal の範囲内にある A, B 両誌に関しては、引用の間違いが無い限り、数値計算に支障はない。しかし、例えば A が SCI Source Journal に属していない雑誌 X を引用している場合、X は SCI Cited Journal としてリストされ、その被引用回数はカウントされるが、X の掲載論文数はデータとして準備されていない場合が多い。このような場合、Impact factor と Immediacy index の計算に際して、除数値が用意されないことになるので、計算は実行されず、該当のカラムが空白になるわけである。SCI Source Journal についても、引用の間違いによって同じ現象が生じる。例えばタイトル番号 23 の *Acta Crystallographica* は、1972 年と 1973 年の掲載論文数が 0 であるにもかかわらず、同期間内の論文が 1974 年に 40 回引用されたことになっている。また 1974 年の掲載論文数が 0 であるにもかかわらず、同年に 3 回引用されたことになっている。いずれの場合も Impact factor, Immediacy index の計算の際、除数が 0 となるので計算できず、該当のカラムは空白になっている。事実、同誌は 1972 年より A, B 両セクションに分離している(タイトル番号 24 と 25)。上記の合計 43 回の引用は明らかに論文著者の Reference の誤りによるものである。この場合、どの雑誌が誤った引用をしているかは、後述する Cited Journal Package で ACTA CRYSTALLOGR を参照すれば調べられる。



2.2 Journal Ranking Package, Section 2-6

いずれの Section も、第一カラムが、前述したそれぞれの尺度による順位づけを示している。他のカラムは、Section 1 と全く同じである。記入例によって明らかなように、Section 2 は、1974 年に引用された総回数 (第 3 カラム) の順になっている。以下、Section 3 は Impact factor (第 10 カラム)、Section 4 は Immediacy index (第 13 カラム)、Section 5 は 1974 年の掲載論文数 (第 12 カラム)、Section 6 は 1972 年と 1973 年の論文が 1974 年に引用された回数 (第 6 カラム)、の順にランキングされている。複数の雑誌が同一順位を占める場合、次の順位はその重複分だけ番号をとばして、番号づけがなされている。例えば、Section 5 で第 27 位は 3 種の雑誌で占めているので、次順の雑誌は第 30 位となっている。スペースの関係で記入はごく一部にとどまっているが、各 Section とともに 20 頁をこす見ごたえのあるものになっている。

この 5 つの Section が JCR のいわば中核をなしているもので、学術雑誌の評価の基準を提供してくれるものである。このうち Section 2, Section 5 および Section 6 においては、雑

誌紙面の大きさ、1号の平均ページ数など物理的な条件や、刊行頻度など出版政策の差異によって、順位づけに有利・不利の差が生ずるが、Section 3とSection 4は、これらの歪みを補正するものとして重要な意味をもっている。Section 3で上位を占めている雑誌は、それぞれの研究領域で最も重要な雑誌とみなさるべきものである。Section 4で上位にランクされている

Journal Ranking Package, Sections 2-6:

Specimen

JOURNAL CITATION REPORTS

JOURNAL TITLE	CITATIONS IN 1974 TO				SOURCE ITEMS IN				IMPACT FACTOR	CITATIONS IN 1974 TO	SOURCE ITEMS IN 1974	IMMEDIACY INDEX
	ALL YEARS	1973	1972	73+72	1973	1972	73+72	1974 ITEMS				
Section 1												
2321 SCI PROGR	167	0	22	22	6	26	32	0.688	2	20	0.100	
2322 SCI REPRES I TOHOKU	125	3	2	5	8	14	22	0.227	0	6	0.000	
2323 SCI SINICA	183	42	2	44	43	0	43	1.023	19	60	0.317	
2324 SCI STUD	39	5	0	5	17	17	34	0.412	9	20	0.450	
2325 SCIENCE	47505	5121	6660	11781	1026	1151	2177	5.412	1208	919	1.314	
2326 SCI MED J	360	39	41	80	35	60	95	0.842	4	46	0.125	
2327 SCRIPTA MET	990	198	212	410	234	230	464	0.884	46	271	0.170	
2328 SEARCH	92	21	36	57	70	77	147	0.388	13	92	0.141	
2329 SEDIMENT GEOL	68	9	15	24	30	36	66	0.364	0	18	0.000	

Section 2

1 J AM CHEM SOC	98995	7855	9233	17088	1776	2123	3899	4.383	1835	1432	1.281
2 J BIOL CHEM	81354	6319	7366	13685	1213	1129	2342	5.843	1352	1147	1.179
3 J CHEM PHYS	82041	4496	5966	10462	1725	1860	3585	2.918	1022	1631	0.627
4 NATURE	59206	4016	3979	7995	1222	977	2199	3.636	1404	1962	0.716
5 BIOCHIM BIOPHYS ACTA	51491	6409	7720	14129	2314	2215	4529	3.120	946	1910	0.495
6 PHYS REV	50828	63	76	141	0	0	0	0	225	0	0
7 SCIENCE	47505	5121	6660	11781	1026	1151	2177	5.412	1208	919	1.314
8 P NAT ACAD SCI USA	46917	6866	8451	15317	849	855	1704	8.989	1268	1195	1.061

Section 3

41 TOPICS STEREOCHEM	296	17	7	24	4	0	4	6.000	6	4	1.500
42 J BIOL CHEM	81354	6319	7366	13685	1213	1129	2342	5.843	1352	1147	1.179
43 ANNU REV BIOPHYS BIO	178	33	139	172	11	19	30	5.793	6	14	0.429
44 CHEM SOC REV	230	126	130	256	20	1	21	5.689	1	21	0.24
45 INT REV CYTOL	1236	76	135	209	21	17	38	5.500	15	30	0.500
46 ORG REACT	164	5	41	46	4	4	8	5.500	0	2	0.000
47 ADV CELL MOL BIOL	94	0	49	49	0	9	9	5.444	0	5	0.000
48 SCIENCE	47505	5121	6660	11781	1026	1151	2177	5.412	1208	919	1.314
49 GASTROENTEROLOGY	8693	1030	1230	2260	198	221	419	5.194	191	240	0.796
50 ORGANO MET CHEM REV A	226	0	53	53	0	10	10	5.300	0	0	0

Section 4

19 ADV COLLOID INTERFAC	113	0	25	25	0	5	5	5.000	7	5	1.400
20 J EXP MED	20699	2203	3354	5557	245	223	468	11.874	347	257	1.350
21 PHYSIOL REV	3986	227	272	499	18	18	36	13.861	25	19	1.316
22 SCIENCE	47505	5121	6660	11781	1026	1151	2177	5.412	1208	919	1.314
23 BELL SYST TECH J	2521	166	145	311	95	106	201	1.557	122	93	1.312
24 ADV ORGANOMETAL CHEM	408	66	26	92	8	7	15	6.133	9	7	1.286
25 J AM CHEM SOC	98995	7855	9233	17088	1776	2123	3899	4.383	1835	1432	1.281

Section 5

26 J APPL PHYS	19277	1509	1766	3275	1077	1025	2102	1.550	371	956	0.388
27 J CHEM SOC CHEM COMM	14454	1856	2597	4453	894	1231	2125	2.096	353	938	0.376
28 PHYS REV D	47505	2932	2372	5304	1833	915	1948	2.723	802	533	0.660
29 FIZ TVERD TELA	4497	496	562	1058	936	885	1821	0.583	114	504	0.124
30 SCIENCE	47505	5121	6660	11781	1026	1151	2177	5.412	1208	919	1.314
31 SOLV PHYS SOLID ST	2377	143	227	370	936	427	1363	0.271	12	919	0.013
32 CHEM PHYS LETT	8495	1899	2306	4205	928	822	1750	2.403	423	896	0.472
33 BRAIN RES-AMSTERDAM	10227	2012	2510	4522	775	682	1457	3.104	565	893	0.633

Section 6

1 J AM CHEM SOC	98995	7855	9233	17088	1776	2123	3899	4.383	1835	1432	1.281
2 P NAT ACAD SCI USA	46917	6866	8451	15317	849	855	1704	8.989	1268	1195	1.061
3 BIOCHIM BIOPHYS ACTA	51491	6409	7720	14129	2314	2215	4529	3.120	946	1910	0.495
4 J BIOL CHEM	81354	6319	7366	13685	1213	1129	2342	5.843	1352	1147	1.179
5 SCIENCE	47505	5121	6660	11781	1026	1151	2177	5.412	1208	919	1.314
6 J CHEM PHYS	82041	4496	5966	10462	1725	1860	3585	2.918	1022	1631	0.627
7 LANCET	37047	5249	5134	10383	646	909	1555	6.677	1971	673	1.164
8 PHYS REV LETT	29275	5167	4941	10108	899	1099	1998	5.059	1416	960	1.475

ものは、いわゆる current awareness のための雑誌として不可欠のものともてよいだろう。このように、学術雑誌の評価に際しては、必ずこの両 Section を通覧し、研究分野における各タイトルが両 Section で占めるランキングの相対的な位置関係を明確に把握しなければならない。

次に、この Package における Section 間のつながりを記入例を見ながら説明しよう。例えば、SCIENCE の各種の順位を調べるとする。まず Section 1 の総表を参照し（タイトル番号 2325 が与えられている）その第 3 カラムで、同誌が 1974 年に 47,505 回引用されていることを知る。そこで Section 2 に移り、同じ第 3 カラムを下っていけば、同誌が被引用回数で第 7 位（第 1 カラム参照）を占めているのがわかる。同時に Impact factor が 5.412 であることをおさえ、次に Section 3 で Impact factor のカラムを見てゆけば、同誌は第 48 位と知ることができる。ついでに右端の Immediacy index の値 1.314 を記憶しながら、Section 4 の右端のカラムを下ることで、同誌はこの指数では、第 22 位であることがわかる。また右隣りのカラムで、1974 年の掲載論文数が 919 であることを頭に入れ、Section 5 に移り、同じ右端から 2 番目のカラムをたどれば、同誌が 1974 年の掲載論文数で第 27 位であることを知らされる。さらに第 6 カラムから、同誌が 1972 年と 1973 年に掲載した論文が 1974 年に 11,781 回引用されていることを知る。最後に Section 6 の同じカラムを下ることによって、この尺度によれば同誌が第 5 位にランクされていることを知ることができる。

2.3 Citing Journal Package

この Package と後述する Cited Journal Package は、引用雑誌と被引用雑誌との相互関係を、被引用文献の刊行年ごとに区分して表示するものである。或る雑誌が、どのような雑誌のどの年の論文を一番よく利用しているか、またその逆に、或る雑誌のどの年の論文が、どのような雑誌に一番よく利用されているか、はこの両 Package を参照することで容易に把握することができる。つまり両 Package は、いろいろな学域における研究者間の文献情報ルートを知る上で、極めて重要な役を果すものである。

また、inter/multi-disciplinary な研究領域における key/core-journal を知る上で有力な手がかりを与えてくれる。

では Citing Journal Package の記入例を説明しよう。

記入は SCI-1974 の Source Journal の誌名（省略形）順に排列されている。

各記入の第 1 行（Main-entry line）のカラム記載内容は以下のとおりである：

カラム（左より）	カラム記載内容の説明
1	第 2 カラムの雑誌の Impact factor
2	引用雑誌 (Citing journal) 名の省略形
3	第 2 カラムの雑誌が、1974 年に掲載した全論文の引用総回数：ただし、ある論文が他の同一論文を複数回引用している場合は 1 回とカウントとする、いわゆる unique reference の回数である。このカラムの数値には必ず * 印が付されている。
4~14	第 3 カラムの数値を引用された論文 (cited articles) の刊行年ごとに分布したものである。ただし、第 14 カラム（右端）の数値は、1964 年とそれ以前に刊行された論文が 1974 年に引用された回数の合計値である。

Main-entry line の下に、引用された雑誌 (cited journal) が Subentry としてリストされている。その順序は、Main-entry line の合計欄（第 3 カラム）の内訳で、cited journal が占め

る数値の高いものが優先する。リストされる cited journal の数 (N) は原則として、次の条件のすべてを満たす範囲にとどめられており、残りは自動的に打ち切られる。① $N \leq 100$ ② N の citation の合計 $\leq$ Total citation の 75% ③ N 番目の cited journal の citation ≥ 6 。打ち切られた cited journal は Sub-entry の最下行 ALL OTHER で一括されている。右隣の ()

Citing Journal Package:

Specimen

JOURNAL CITATION REPORTS													
CITING JOURNAL PACKAGE													
PAGE 449													
CITING JOURNAL	CITED JOURNAL	TOTAL	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984
17	MATH NACHR (CONTINUED)	478	8	17	46	57	35	34	21	22	30	20	188
	ALL OTHER (333)												
23	MATH SCAND	215	1	14	30	15	17	14	12	8	14	4	86
23	MATH SCAND	16	0	3	4	0	0	1	0	0	1	0	6
1 22	ANN MATH	13	0	0	1	1	2	1	0	0	1	0	7
2 08	ACTA MATH	18	0	1	1	0	1	0	2	0	0	0	5
29	ARK MAT	7	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	4
51	B AM MATH SOC	7	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3
46	I AM MATH SOC	6	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	3
	ALL OTHER (90)	158	1	9	24	13	12	12	10	6	10	3	58
47	MATH Z	1090	26	92	115	95	70	66	61	49	41	43	432
47	MATH Z	151	5	24	18	12	19	6	9	6	7	7	36
58	MATH ANN	60	4	2	0	3	1	1	1	1	1	1	14
48	I AM MATH SOC	46	1	3	1	3	2	6	2	1	2	4	21
77	J ALGEBRA	40	0	3	10	7	1	5	5	1	4	0	4
1 22	ANN MATH	37	0	1	2	0	1	3	2	1	0	0	27
30	P AM MATH SOC	27	0	7	5	0	4	0	1	0	1	0	10
72	ARCH RATION MECH AN	25	0	3	3	4	1	5	4	0	2	1	4
47	AM J MATH	24	0	0	1	1	0	2	0	1	1	0	18
51	B AM MATH SOC	23	0	3	4	2	0	1	0	3	0	2	7
59	COMMUN PUR APPL MATH	16	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	6
31	J LOND MATH SOC	19	0	5	4	2	0	1	0	0	0	2	7
53	COMMENT MATH HELV	18	0	0	3	0	0	1	0	1	0	1	12
27	PAC J MATH	18	0	2	0	1	1	2	0	0	2	2	8
33	CAN J MATH	17	1	1	3	0	2	2	1	1	0	0	4
21	ARCH MATH	16	0	1	1	1	1	2	0	1	0	0	5
31	ILLINOIS J MATH	16	0	0	1	0	2	1	0	1	0	2	0
80	INVENT MATH	14	1	0	0	3	2	0	2	4	2	0	0
2 08	ACTA MATH	13	0	0	0	1	0	0	2	1	1	0	8
	ABH MATH SEM HAMBURG	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	CR MEBO ACAD SCI	12	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	7
	FUND MATHEMATICAE	11	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	6
35	J REINE ANGEW MATH	11	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	8
53	P LOND MATH SOC	11	0	0	0	3	1	0	0	0	1	1	3
39	DUKE MATH J	10	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	7
	INDAGATIONES MATH	9	0	2	0	2	0	0	0	0	0	1	4
	J COMB THEORY	8	0	1	3	0	2	1	0	2	1	0	0
34	MANUSCRIPTA MATH	8	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	J DIFFERENTIAL GEOM	7	0	0	0	2	1	1	2	1	0	0	0
49	SIUD MATH	7	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	3
	TOPOLOGY	7	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	2
36	ANN I FOURIER	6	0	2	0	0	0	0	0	0	3	0	1
25	B SOC MATH FR	6	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1
	J FUNCT ANAL	6	0	0	3	1	0	0	2	0	0	0	0
30	J MATH SOC JAPAN	6	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	2
	MAT SB	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	SOV MATH DOKLADY	6	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0	0
	ALL OTHER (217)	356	5	28	40	41	24	19	12	18	9	14	150
33	MATHEMATIKA	88	3	9	13	3	4	1	0	2	1	1	39
33	MATHEMATIKA	12	0	3	2	1	0	2	0	0	0	0	2
1 25	J FLUID MECH	5	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	2
51	B AM MATH SOC	4	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
31	J LOND MATH SOC	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	NUMBER THEORY	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
39	P CAMB PHIL SOC	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	ALL OTHER (41)	56	2	5	5	8	1	2	1	0	2	1	29
04	MATRIX TENSOR QUANT	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
	IEEE T	4	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0
1 04	J MATH PHYS	4	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1
25	J FRANKLIN INST	3	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0
39	SIAM J APPL MATH	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	J SOC IND APPL MATH	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ADV CALCULUS	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	ALL OTHER (17)	17	0	0	0	2	1	0	0	1	1	2	9
2 00	MAYO CLINIC P	2312	75	278	203	224	145	152	127	113	72	68	855
8 99	J CLIN INVEST	80	3	13	7	12	2	5	2	2	1	2	31
8 36	AM J MED	78	1	16	6	8	7	3	4	5	3	5	22
6 97	LANCET	72	3	10	5	9	2	0	0	0	3	3	16
4 41	AM J MED	57	0	8	2	12	1	4	1	2	2	1	24
2 41	AM J PHYSIOL	54	0	6	8	0	0	4	4	2	7	1	12

は打ち切られた cited journal のタイトル数を示している。

Sub-entry line のカラム記載内容は以下のとおりである；

カラム (左より)	カラム記載内容の説明
1	第2カラムの雑誌の Impact factor: 空白については前述した。
2	引用された雑誌 (cited journal) 名の省略形
3	第2カラムの雑誌が、1974年に Main-entry の雑誌によって引用された総回数
4~14	第3カラムの数値を、引用された論文 (cited article) の刊行年ごとに分布したものである。ただし、第14カラム (右端) の数値は、1964年とそれ以前に刊行された論文が、1974年に引用された回数の合計値である。

以上を Mathematische Zeitschrift (省略形 MATH Z) を例にとって説明しよう。まず Main-entry line から、同誌は 1974 年に総計 1,090 回引用していること、次にこの 1,090 回のうち、1974 年の論文を 26 回、1973 年の論文を 92 回、……1964 年とそれ以前の論文を 432 回引用していることがわかる。続けて Sub-entry を読もう。同誌は 1974 年に自誌の論文を 151 回引用している。このことから同誌の自誌引用率 (Self-citation rate) は 13.8% (151/1,090) とわかる。またこの 151 回のうち、5 回は 1974 年の論文を、24 回は 1973 年の論文を引用していることが読みとれる。次に、同誌は自誌について、Mathematische Annalen (省略形 MATH ANN) を最も多く利用しているのがわかる。MATH Z は MATH ANN を 1974 年 1 年間に合計 60 回引用している。

この 60 回のうち 4 回は MATH ANN が 1974 年に掲載した論文を引用したものである。また MATH Z が MATH ANN を引用したケースのうち、10 年以前の論文を引用したケースが 50% 以上 (34/60) を占めている。さらに Sub-entry のリストを観察することによって、このドイツの雑誌が、他国の雑誌をよく引用していること、また物理数学や応用数学の分野とも関連しているのが理解される。

なお、Citing Journal Package は SCI-1974 の Source Journal 2,443 タイトルを含んでおり、この Package のみで JCR の 640 ページを占めている。

2.4 Cited Journal Package

前の Cited Journal Package が、ある雑誌がどのような雑誌を引用しているかを示しているのに対して、この Package は、ある雑誌がどのような雑誌に引用されているかを示すものである。つまり両 Package は、互に表裏の関係にあると考えれば理解しやすい。ただし、Citing Journal Package は SCI-1974 の Source Journal のみを対象にしているのに対して、この Package は、先に図示した Source Journal 以外の雑誌 X に類するものも cited journal として含んでいるので、Main-entry の数は 2,500 タイトルを越えている。(Sub-entry の数のせいか、JCR でこの Package の占めるページ数は 490 と前の Package より逆に少くなっている)

Cited Journal Package の記入例を見てみよう。

一見してわかるとおり、記入の形式は前の Citing Journal Package と全く同じである。この Package の行とカラムの意味は、Citing Journal Package の説明を、citing-cited の関係で逆転させて考えれば容易に理解されると思われる。ここでは、すぐ示例の説明に入ろう。

American Journal of Physics (省略形 AM J PHYS) を例にとろう。同誌は 1974 年に合計 800 回引用されている。そのうち 14 回は同誌 1974 年の論文から引用されており、95 回は同誌 1973 年の論文から引用されている……。引用された 800 回のうち、230 回は同誌の 1964 年と

それ以前の論文から引用されたものである。一方、同誌は、1974年に自誌の論文を合計回243引用しているので、自誌引用率は30.4% (243/800) と計算される。この243回の自誌引用のうち、7回は1974年の論文、60回は1973年の論文から引用したものである……。自誌引用を除いて、同誌を一番ひんぱんに利用しているのは、Journal of Chemical Physics (省略形 J CHEM

Cited Journal Package:

Specimen

JOURNAL CITATION REPORTS													
		CITED JOURNAL PACKAGE										PAGE 39	
CITED JOURNAL CITING JOURNAL		TOTAL	1974	1973	1972	1971	1970	1969	1968	1967	1974-1965	REST	
AM J PHARM EDUC (CONTINUED)													
26 J AM PHARM ASSOC	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
67 PHARMAZIE	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
ALL OTHER (10)	10	0	1	3	1	2	0	2	0	1	0	0	0
25 AM J PHYS	800	14	95	104	83	77	61	46	40	31	19	230	
25 AM J PHYS	243	7	60	44	34	14	10	17	5	10	8	34	
2 01 J CHEM PHYS	29	0	1	4	2	5	3	5	1	0	0	0	0
1 99 NUOVO CIMENTO	26	0	2	6	0	5	1	0	1	2	1	8	
2 86 PHYS REV B	25	0	0	1	4	5	2	3	0	0	0	0	0
2 61 PHYS REV A	21	1	0	6	1	7	0	0	2	1	0	3	
75 LETT NUOVO CIMENTO	18	0	2	2	2	1	1	0	1	0	0	10	
2 72 PHYS REV D	17	0	2	3	1	0	1	0	0	0	0	6	
53 FOUND PHYS	14	0	1	5	2	0	0	0	0	0	0	2	
1 55 J APPL PHYS	14	0	1	0	4	1	4	1	1	0	0	2	
1 04 J MATH PHYS	13	0	0	2	3	4	0	2	1	0	0	4	
2 01 J OPT SOC AM	12	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	4	
96 PHYSICA	12	0	0	3	2	5	0	0	0	0	0	2	
1 19 J PHYS A MATH NUCL G	10	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	6	
07 IEEE T EDUCATION	9	0	1	0	2	1	2	2	1	0	0	0	0
09 ARCH HIST EXACT SCI	8	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	5	
1 74 J MOL SPECTROSC	8	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	
1 51 USP FIZ NAUK	8	0	0	0	1	2	1	1	0	0	0	3	
1 39 J PHYS CHEM SOLIDS	7	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	4	
5 41 SCIENCE	7	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	2	
1 94 SOLID STATE COMMUN	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
4 06 ASTROPHYS J	6	0	0	0	0	1	2	2	0	2	0	1	
1 02 INT J QUANT CHEM	6	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	1	
2 01 P J ELEC ELEC ENG	6	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
2 21 P ROY SOC LOND A MAT	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	
1 11 PHYS STATUS SOLIDI B	6	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	8	
ALL OTHER (153)	262	3	21	22	16	22	23	14	20	13	8	100	
89 AM J PHYS ANTHROPOL	920	10	103	106	67	79	57	50	38	32	32	346	
89 AM J PHYS ANTHROPOL	250	2	8	34	23	30	16	7	12	7	3	94	
69 HUM BIOL	61	0	3	11	0	9	6	4	4	2	3	19	
52 J HUM EVOL	57	0	10	12	3	3	6	0	1	4	2	16	
15 AM J HUM GENET	26	0	4	5	3	3	0	0	1	0	0	10	
3 23 BRIT J CANCER	14	2	1	1	2	3	1	0	1	2	0	1	
60 ENVIRON PHYSIOL BIOC	14	0	0	2	1	0	0	4	0	1	1	5	
2 80 J LAR CLIN MED	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3	
8 2 J PHARMACOL-PARIS	14	0	3	4	0	0	1	2	0	1	0	3	
6 67 LANCET	14	0	4	2	3	1	0	2	1	0	1	0	
22 ACTA PHYSIOL POL	13	0	0	2	0	0	1	2	2	3	0	3	
ALL OTHER (508)	1770	17	155	239	174	155	180	167	96	102	113	372	
BIOCHEM PHYSIOL VISU													
2 78 J COMP PHYSIOL	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1 00 Z NATURFORSCH C	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
73 BIOCHEM SOC TRANS	502	97	398	7	0	0	0	0	0	0	0	0	
3 62 BIOCHEM J	73	9	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
73 BIOCHEM SOC TRANS	18	28	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3 12 BIOCHIM BIOPHYS ACTA	29	4	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3 04 FEBS LETT	21	5	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2 91 J ENDOCRINOL	18	0	17	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
3 87 EUR J BIOCHEM	12	2	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3 53 J NEUROCHEM	12	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3 63 NATURE	11	5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3 74 BIOCHEM BIOPH RES CO	8	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5 84 J BIOL CHEM	8	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7 50 J MOL BIOL	3	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ORIGINS LIFE	7	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
47 GENETIKA	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2 16 J GEN MICROBIOL	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
6 47 LANCET	6	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1 69 PURE APPL CHEM	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ALL OTHER (131)	234	32	197	5	0	0	0	0	0	0	0	0	
BIOCHEM Z	2420	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3 12 BIOCHIM BIOPHYS ACTA	131	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	98	
5 84 J BIOL CHEM	115	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	13	
3 82 EUR J BIOCHEM	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	10	
3 62 BIOCHEM J	77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
MOL CELL BIOCHEM	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
4 71 BIOCHEMISTRY-US	64	0	0	0	0	0	1	0	1	5	1	56	
2 29 M-S Z PHYSIOL CHEM	55	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	45	
ARCH BIOCHEM	52	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	43	
1 71 J BIOCHEM TOKYO	37	0	0	0	0	0	0	0	0	9	3	25	
3 04 FEBS LETT	29	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	22	
3 74 BIOCHEM BIOPH RES CO	27	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	25	
8 88 P NAT ACAD SCI USA	27	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	25	
2 72 J BACTERIOL	26	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	19	

PHYS) で、1974 年で合計 29 回引用している。しかし、J CHEM PHYS は、AM J PHYS の 1974 年の論文を同年中に 1 度も引用していない。29 回の引用のうち、AM J PHYS の 1973 年、1972 年、10 年以前の論文を引用した回数はそれぞれ 1 回、4 回、8 回である。また AM J PHYS は、1974 年に、Sub-entry にリストされている雑誌のほかに、153 タイトルの雑誌によって合計 262 回引用されている。

次に BIOCHEM PHYSIOL VISU を見てみよう。同誌は 1974 年に、他の 2 誌によって 2 度引用されているだけで、しかも 2 度とも 1973 年の論文の論文が引用されている。実は Biochemistry and Physiology of Visual Pigments は 1973 年に出版されたシンポジウムの報告書なのである。この例でみるように、引用が特定年の論文のみに限られているとき、その資料は Symposium, Conference の報告書など、いわゆる soft journal である場合が多い。ついでにもう 1 つ下の Biochemical Society Transactions (省略形 BIOCHEM SOC TRANS) を調べてみよう。この雑誌は 1974 年に合計 502 回引用されているが、そのうち 495 (97+398) 回が、1974 年と 1973 年の論文から引用されている。わずか 7 回だけ 1972 年の論文が引用されているだけで、それ以前の論文からは 1 度も引用されていない。事実、この雑誌は Biochemical Journal の Proceedings Section に代って、1973 年から刊行された比較的新しい雑誌なのである。従って 1972 年の論文から得られたという 7 回の引用は、明らかに論文著者の誤りによるものである。このように新しい雑誌は、特定年より右側のカラムが 0 で埋められているので容易に判別できる。逆に特定年より左側のカラムが 0 で埋められていれば、廃刊、休刊、他誌への併合など、何らかの出版方針の変更を察知できる。

おわりに

今までのべてきたことから、学術雑誌の有効度測定とその評価に関して JCR が具えている潜在的な能力を理解して頂けたと思う。最後に、JCR を利用する場合に注意すべきことを二三つけ加えておきたい。第 1 に、すでに幾度もふれたように、JCR は SCI で扱われている雑誌のみを対象にしているということである。従って SCI での問題点はそのまま JCR にも持ちこまれていると考えてよい。例えば、JCR においてもローマ字以外の文字を使用している雑誌、特に日本やソ連の雑誌はごく少数しかカバーされていない。第 2 に、それぞれの研究分野で文献引用の態様 (citation practice) が異なることである。或る分野では必然的に多数の文献を引用することになるかもしれないが、別の分野では少数の文献で充分かもしれない。また或る分野では常に最新の文献を必要とし、文献価値の低下現象 (obsolescence) が短期間で発生するのに対して、別の分野では、年代的に古い文献が有効に引用されるかもしれない。このように互に異なる分野の雑誌を、Impact factor や Immediacy index のみを根拠に比較しても無意味なところか、却って危険ですらある。第 3 に Impact factor や Immediacy index は、単に平均的な値を示しているにすぎないということである。ある雑誌の二三の特定の論文が他誌に極端に多く引用される場合には、これらの平均値に有利に作用するだろう。JCR を利用するには、以上のように数値で表現され得ないいろいろの要件をよくわきまえることが必要である。

これらの制約にもかかわらず、JCR は現在のところ、学術雑誌に関する唯一の書誌統計的 (bibliometric) な分析手段である。研究者と図書館員は、SCI と合わせて本書を大いに活用してほしい。

(閲覧課 参考掛長)

洋書の購入をめぐる ― 原価確認ということ ―

小 西 和 信

図書の購入にあたっては、何を買うかという選書や蔵書計画の問題が最も重要であることは論を俟たないが、ここでは購入決定された図書をいかに確実・迅速に入手するかという問題について、特に近年国立大学等で恐らくはクローズアップされているであろう洋書の原価確認を取りあげることによって考察したい。

何故「原価確認」なのか

輸入物品である洋書を国内の洋書取次店を通じて購入する以上、購入価格は取次店の値付けに基くのが通常でありとりたてて原価にまで及ぶものではないかに見える。しかし仮に取次店がまちまちな値付けをし同一図書について高安があるとすれば、国の会計上かは最も安価なところより購入することを原則としなければならない。常識的に云っても全国の数ある取次店の中より最も安く販売しているところを探し出すのは不可能に近い。ところが幸なことに各取次店は洋書を店頭で、あるいは通信で販売する場合、原価（出版社の公示価格＝定価）に一定の円換算率（最近では1\$=340円、1£=640円等）をかけあわせて算出した店頭販売価格を設定していることが広く確認されている。この換算率は昨年の公取委の勧告による影響かどうかはわからないが各社変更の時日に数日から半月程の開きがあるものの、トータルに見れば国内どの取次店も同じである。従って一般に洋書はどこから購入しても購入価格に差を生じないことになる。逆に言えば特殊なケースでない限り、どの取次店から購入することも出来るわけである。ここに至って購入した洋書が適正な価格で納入されているか否かは、原価の確認によって証明出来ることになり、同時に確認の必要性も生じて来るのである。

確認の方法

和書のように奥付やブックカバー、帯等に定価が表示されている場合は容易であるが、洋書は一般に現品に価格表示のないことが多い。この場合、何らかの形で定価表示のある資料によって確認しなければならない。確認に使える資料としては Books in Print, Verzeichnis Lieferbarer Bücher 等の各国の全国書誌類、各出版社のカタログや Price List がある。新刊書の場合は全国書誌類のデータとの時間較差があるし、登載されていてもそれ以降の値上げ等によって確認出来ないものが多い。従って最も信頼出来る資料としては各出版社の最新の出版案内、予告、総合カタログ等で、主要出版社のものは直接精求するなりして積極的に収集しておくことが望ましい。実際にとことんまで確認しようとなると、参考閲覧室を駆けめぐる葉にもすぎる気持で立ち向わざるを得ない事もある。最終的には取次店に対して Invoice の提出を求める。但し Invoice は図書一点一点について作成されるとは限らないので、提出に難色を示す取次店も多い。

国内代理店経由のもの

原価を確認したものの実際の請求金額と合わないものがある。通常の換算よりも高額で、時には25%近く高いという甚だしいものもある。これらは概ね国内の代理店を経由しているものである。例えば Bowker 社、G. K. Hall 社、Marquis Who's who 社等は U.P.S. が国内の総代理店となっており、どの取次店を通じても国内の発注は全てこの代理店を経由しなければならない。値付けは代理店の特権として決定するので一般に高額換算されている。外国雑誌

等ですでに明らかにされた所謂「円建」である。これらの確認は代理店が出した Price List による他なく、例え現物に定価が表示されていても意味を持たない。代理店といっても千差万別であり、一出版社の全出版物についての単独販売権を有しているところから、リプリント物だけ、あるいは特定のタイトルについてのみ権利を有しているにすぎないところまである。一出版社についていくつかの代理店が併存している場合もある。こうした実態は日本洋書輸入協会が配布している Directory によって把握することが出来る。どの出版社のものが国内に代理店を有しているかについて一目瞭然である。代理店経由のものであるからといって、必ずしも高額になるとは限らない。極端な例かも知れないが、法律の加除ものの出版物で有名な Mathew Bender 社は、国内の代理店に対して 1\$=330 円換算することを命じている。また国内に総代理店が存在しても、代理店以外の取次店から通常の換算率で納入されることもある。Verzeichnis Lieferbarer Bücher の納入に関して経験している。これらの例は、代理店の契約内容によるし、更には出版社の Policy による。

経験に即して云えばこうした代理店ものがかなりの割合に達している。外国雑誌の場合でも本学の全購入タイトル中円建によるものが約 7% を占めていると云われている。

最近とみに各取次店間で代理店競争が熾烈を極めていくと聞く。国内における販売権の独占という事は取次店にとっては確かに死活問題かも知れないが、果して購入者側にとってこうした代理店問題がどのようなメリット・デメリットを持つか冷静に見守っていかなければならないだろう。

海外における代理店等

先にあげた Mathew Bender 社は昨年日本に代理店を設けるまでは、オーストラリアに極東代理店があり、わが国からの発注は全てここを経由していた。現品の発送から決裁まですべてを処理するわけで、仮に米国の本社に直接オーダーすることが時間的に早くとも止むを得ないのである。各国の数多い出版社がこの種の代理店を有していると考えられる。一方、代理店というのではないかも知れないが、先年フランスの全国書誌 Biblio を発注したところ、これは Hachette 社を経由して入ったため高額換算となった。フランス国内の地方出版社や中小出版社のものは Hachette 社のような在庫書店を経由する事が多いようであり、その事がマージンを吸収し国内の販売価格にはねかえって来るのである。Hachette 社のような存在は各国にある。西独では VLB で GW KÖ などの表示が図書ごとに付されているが、これらは Grosshaus Wegner とか Wilhelm Könnemann などの在庫書店に在庫のあることを示している。但しここを経由しても高額換算にならない。東独の Buch-Export は国外からのオーダーを一括する傾向にあり、従来各出版社ごとに対するオーダーが可能であったものが、最近では Buch-Export に回されている旨聞いている。今春来館された Buch-Export の代表の方もわが国からの新刊図書の発注は全て Buch-Export を経由する以外入手方法はないと云われていた。ドイツの状況については、Börsenverein des Deutschen Buchhandels の How to Obtain German books and Periodicals. に詳しい。

また直接代理店の状況についての参考資料ではないが、Bowker 社の International Literary Market Place には世界各国の出版社、主要書店が国別に載っており、特に Book Trade Reference: Books and Journals として書目が上がっている。これによって各国の原価確認に使える資料も探し出すことも出来、受入や発注担当にとっては必備の文献と考えられるので付言しておく。

複数の原価表示

図書のカバーなどに定価表示のあるものでドル、ポンド2種類の表示がなされていることがある。時にはマルク、フランを含めて4種類の表示のある場合もある。またオランダのElsevier社のカタログはドルとギルダーの2通りの原価が示されている。このような場合、どの通貨によって確認すべきであろうか。

最近では各国に支店網をもつ多国籍企業の出版社の存在が目立ち、また米国ではA社、英国ではB社という具合に、出版提携を結び同一図書を刊行するというケースも増えている。そのために複数の原価表示がなされるのであるが、いずれの場合でもオリジナルの出版社、出版国であり、その通貨による表示を採用すべきであろう。確かに換算率の関係上ドル定価よりポンド定価が安く、ギルダーやマルク定価よりドル定価が一般的には安くなる傾向があるので、敢えて高い換算を取らなければならない場合は購入者の感情からすれば納得しがたい点があるのも事実であろう。しかしどの通貨による原価表示を取るかは国内取次店の段階ではなく、出版社あるいは海外の取次店の指定するところなので止むを得ない。具体的に云えば、オリジナルの出版社が英国のB社である場合、たとえ米国のA社のものを発注してもU.S. OnlyあるいはNo Rightという形でオーダーが返されてしまう。つまり出版提携の契約内容にかかわる問題ではあるが、米国のA社は米国国内における販売に限るという形で出版を許可されているのであって、当然にも国外であるわが国のオーダーに応えることは出来ないわけである。すなわち、ドル表示は米国国内にのみ適用されるのであり、わが国からの発注に対してはB社のものがポンド換算で納入されるということになる。このような出版提携はどの程度行われているか。勿論推定であるがBooks in PrintとBritish Books in Printの間の30%と云われる重複タイトルのうち大部分はそのようなものであると考えてよいだろう。もっとも複数原価表示の問題については、まだ解明出来ない点も多く、今後の課題となるであろう。

廉価本・予約もの

ペーパーバック等で単価が安いものは高額換算になっている。取扱いの手数に比してマージン率の低いことが高額換算の理由であるようである。逆に換算率によるものではないが、継続購入のものあるいは発行前に予約したものの中には10~20%位割引されて納入されることがある。出版社のカタログに説明されている場合もある。継続ものでは途中幾度かの価格改訂があっても刊行当時の価格で納入されるケースもある。

あとがき

以上述べてきたことは、洋書取次店の仕入担当者にとってはかえって発注者側の無知を示すものであるかも知れないが、われわれ受入担当の者にとって、今後の業務に何ほどの参考になればと考えて筆を取った。

原価の確認という一見不毛な作業を通じて実は取次店の実態、代理店の問題あるいは出版社のPolicy等書籍の出版流通過程及び機構に対しての知識を得ることが出来、そのことが必要とする本を速く確実に入手することにつながるとしたら、それは原価確認による一つの成果と云えるかも知れない。

洋書の納入は全て取次店側の問題とすることなく、われわれ発注する側が確呼たる出版に関する知識にささえられてコントロールして行かなければならないだろうし、そうすればこそあなたがちに“Tyranny of Distance”をかこつこともなくなるかも知れない。

それにしてもわれわれはまだまだこの種の知識にめぐまれてはいない。単に技術的問題として看過することなく知識習得に心掛けなければならない。

原価確認自体は今後どうなるのだろう。年間数千点にのぼる洋書単行本について全点確認は到底おぼつかないからだ。抽出確認とするならばどのような方式が望ましいだろうか。これも将来に残された問題である。

(整理課 受入掛)

◇ 人事往来 ◇

新図書館長

高 嶋 正 彦 (農学部教授) 52. 10. 1 付

前図書館長

早 川 泰 正 (経済学部教授) 52. 9. 30 付 (任期満了)



北海道大学附属図書館報 「楡蔭」 (通巻 46 号)

1977 年 11 月 10 日 発行 発行人 齊 木 一 郎

編集委員 坂東 慧 (長)・横山梅雄・笹 哲夫・似鳥正吾・千葉哲夫・田中一郎
平田忠夫・坪田充弘・堅田政孝・山本幾夫・高橋 裕・船木敏美

発 行 所 北海道大学附属図書館 札幌市北区北 8 条西 5 丁目 電話代表 711-2111 (2967)

印 刷 所 文 栄 堂 印 刷 所 札幌市中央区北 3 条東 7 丁目 電話代表 231-5560-5561